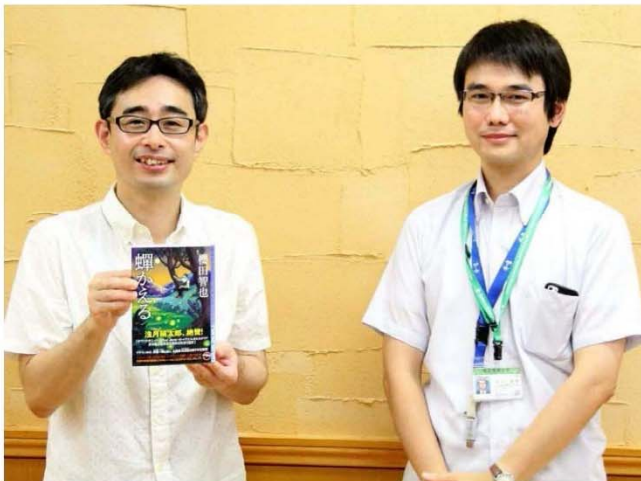


研究生かし 推理小説に協力

江別在住・櫻田さん新作「蟬かえる」

帯畜大・菅沼特任助教 寄生虫分野で

作家櫻田智也さん(江別市在住)の新作ミステリー小説「蟬(せみ)かえる」(東京創元社)に、帯畜産大学(帯畜大)の菅沼特任助教が協力した。物語の肝となる寄生虫について櫻田さんから取材を受け、謎に破綻がないかを専門的な視点からサポートした。



小説「蟬かえる」に協力した菅沼特任助教(右)と著者の櫻田さん

櫻田さんは渡島管内長万部町出身。2013年にミステリースター新人賞受賞。17年に連作短編集「サーチライトと誘蛾灯」でデビューし、「蟬かえる」が2冊目となる。日本推理作家協会賞(短編部門)の候補にも2度挙がっている。

「蟬かえる」は昆虫愛好家の青年を主人公に、日本推理作家協会賞候補作「コマチグモ」など5編を収録。菅沼さんは、この中の1編「サブサハラのカマキリ」で協力した。

菅沼さんは「アフリカ睡眠病」という、ハエが媒介する寄生虫によって引き起こされる感染症を研究している。

櫻田さんはハエ間の母子感染の有無などを菅沼さんに質問し、誤りを改善したり、補足説明などを付け足した。

取材はメールで行い、「研究者としてこうした分野に興味を持ってもらえるのはうれしかった」と菅沼さん。

「蟬かえる」は既に読み終え、「普及研究している」と、疑問が深くなる。最後のどんでん返しはなるほどと思わせたし、主人公の人物像が少しずつ見えてくるのも面白い」と話す。

「蟬かえる」の5編は昆虫を共通のモチーフにしているが、櫻田さんは「専門的な物語ではないので、推理小説として楽しんでほしい」とする。「事件があつて推理、というフォーマットではなく、どうやら何かが起こっているらしいという書き方を心掛けた。どんな事件が起こっているのかを想像しながら読んでみて」と話している。

四六判。256頁。税込1760円。(松田亜司)